



名鉄病院 news letter

人に寄りそう 命と向き合う

令和2年 冬号

薬剤部のご紹介



撮影:脳神経外科医師 大原 茂幹

明けましておめでとうございます。令和の時代に入り初めての新年を迎えました。昨年は度重なる台風など、甚大災害が多発し地球温暖化の影響も取りざたされました。温暖化と言えば、年が明けても気温が高い異常気象が続き、7月から始まるオリンピックは大丈夫かと心配になります。一方、医療も昨年の再検証が必要な424病院の公表に端を発する今後の医療構想、働き方改革、診療報酬の改定など、病院経営にとっては先の予測が難しい時代になっています。こういう中でも、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを一生続けられる「地域包括ケアシステム」に役立つ医療を提供する事が当院の役目であると考えています。

令和の出典になった万葉集からは、令和は世の中を平和にさせるというメッセージが込められているそうですが、医療を提供する側も受ける側も思いやりの心を持って臨みたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。



名鉄病院
病院長

細井延行





薬剤部のご紹介



はじめに

薬剤部では外来処方せんの全面院外化に伴い、外来患者さんの薬剤は院外の調剤薬局にて調剤されることになりました。そこで2012年9月より入院患者さんの薬物療法にできる限り関わるため各病棟に専従の薬剤師を常駐し、スタッフ一同薬剤の適正使用が行われるよう努めております。また、医師、看護師、他のメディカルスタッフと共同してチーム医療にも積極的に関わっています。

【薬剤部の概要】

●スタッフ数

- ・薬剤師：24名(非常勤を含む)
- ・事務員：2名
- ・SPD作業員：9名

●専門資格

- ・日本医療薬学会指導薬剤師1名
- ・外来がん治療認定薬剤師1名
- ・糖尿病薬物療法認定薬剤師1名
- ・栄養サポート(NST)専門療法士2名
- ・救急認定薬剤師1名
- ・医療情報技師1名
- ・日本薬剤師研修センター認定薬剤師6名
- ・日本医療薬学会認定薬剤師1名
- ・日本糖尿病療養指導士3名
- ・抗菌化学療法認定薬剤師1名
- ・緩和薬物療法認定薬剤師1名
- ・日病薬病院薬学認定薬剤師6名
- ・日本薬剤師研修センター漢方薬・生薬認定薬剤師1名
- ・日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師9名

●施設認定

- ・日本医療薬学会研修認定施設
- ・薬学生病院実務実習受け入れ施設



2018年～2019年業績(学会発表)

名鉄病院における糖尿病薬処方動向と血糖管理状況の変遷についての検討

『第60回日本糖尿病学会年次学術集会』2018.5 東京

- 前田のぞみ、伊藤美香、武藤達也、神谷高志、安田寛子、横塚陽子、岡本秀樹

L-OHPによる末梢神経障害の改善率調査

『第56回日本がん治療学会学術集会』2018.10 横浜

- 柘植友考、中澤幸久、池田耕介、中村博雄

名鉄病院における糖尿病薬処方動向と血糖管理状況の変遷についての検討(第2報)

『第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会』2018.10 名古屋

- 前田のぞみ、伊藤美香、武藤達也、神谷高志、安田寛子、横塚陽子、岡本秀樹

AST介入によるPIPC/TAZの使用状況の変化

『第28回日本医療薬学会年会』2018.11 神戸

- 平賀八重子

膝前十字靭帯再建術の術後患者における一定量の鎮痛薬定期内服の有効性についての検討

『第28回日本医療薬学会年会』2018.11 神戸

- 恒川朋子、土屋篤志、長谷川一行、武藤達也

テイコプラニン高用量レジメン使用症例における血中濃度の比較検討

『第28回日本医療薬学会年会』2018.11 神戸

- 青木洋平、恒川朋子

がん化学療法による味覚障害に対し亜鉛製剤内服で味覚が改善した一症例

『第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会』2019.2 東京

- 谷岡洋造、向隆行、六鹿歩、大橋千広、梅田彩香、澤野麻子、濱崎未来、北林由布子、菱田光洋、横塚陽子、岡本秀樹

薬剤師関与事例報告における行動と医療安全

『第21回日本医療マネジメント学会学術総会』2019.7 名古屋

- 高橋敬司

■ 薬剤部 部門

① 調剤・薬品供給部門

当院では、入院及び救急外来に受診された患者さんの薬を主に調剤しています。処方された薬剤は、用法・用量や他科の薬との重複がないかの確認をコンピュータで確認後、調剤しています。注射薬の調剤に関しては、用法・用量などの処方内容の他に、混合時の配合変化の有無・投与時間を確認した上で個人別に注射薬をセットして病棟に払い出しています。

② DIセンター・製剤部門

DIセンターでは“引き出し力をつける”をモットーとし、医薬品に関する情報収集・情報提供、資料作成、薬品マスタ管理などを行っています。ITを利用して情報を抽出・加工し迅速で有用な情報提供が出来るように心がけています。

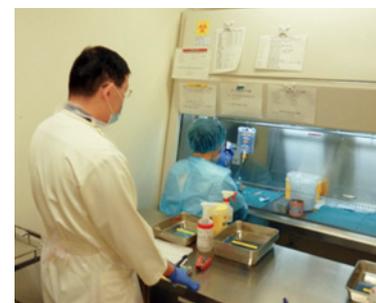
製剤室では主に市販されていないネブライザー用液剤・軟膏・坐薬等の院内製剤、クリーンベンチ内でのTPN(中心静脈栄養製剤)の調製を行っています。

③ 薬物療法支援(病棟)部門

当院では、病棟専従薬剤師を配置しています。入院患者さんの薬歴や処方内容を確認し、薬学的管理(薬剤の投与量、投与方法、相互作用、重複投与、配合変化、配合禁忌等の確認)を行い、投薬の妥当性を再確認し医師や看護師に提供しています。入院後に使用する薬剤に関しては、医薬品の適正使用のため、個々の患者さんに合った投与量等を計算し、医師への処方提案や投与速度、投与ルート、配合変化等の情報提供を行っています。また、処方された薬剤が間違いなく、そして安心して患者さんにご使用いただけるように、配薬管理や薬剤指導、投薬後の効果、副作用等の発現がないことを確認することにより、医師や看護師等と連携して有効かつ安全な薬物治療のための支援やリスクマネジメントに寄与しています。入院中はもちろん退院後も継続して有効かつ安全な薬物治療が行われるよう取り組んでいます。

④ 外来化学療法室

外来化学療法室では、通院での抗がん剤治療を安全・適切に受けいただけるように薬剤師が深く関わっています。レジメン監査や投与量・検査値確認、抗がん剤調製をはじめ、患者さんへの薬の説明や生活指導、処方提案などを行っています。また、調剤薬局への情報提供として、レジメン内容のお薬手帳への記載も行っています。今後も医師や看護師などの他職種と連携を取りながら、良質で安全な医療の提供に取り組んでいきます。



■ 薬剤師が介入している主なチーム医療

① 栄養サポートチーム(NST)

当院のNSTは2チームあり、毎週火曜日と木曜日に回診を行っています。現在薬剤部では、2名の薬剤師がNST専門療法士の資格を持ちNSTで活動しています。栄養状態の維持向上は治療効果をより高めるために必要不可欠です。NST薬剤師として、患者さんの体形や病態に見合ったTPNメニューを設計・提案したり、電解質異常の補正、食欲改善効果のある薬剤を提案したりするなどして患者さんの栄養をサポートしています。これからも患者さん一人一人に寄り添った栄養療法を提供していきたいと考えています。

② 感染対策チーム(ICT)

感染対策チーム(ICT)にて薬剤師は、医師、看護師、細菌検査技師とともに患者さんの病態を考え、抗菌薬の選択や投与量の提案を行っています。抗菌薬は適切に使用しなければ薬剤耐性菌を生み出します。ICTラウンドでは、主に不必要な抗菌薬の投与やカルバペネム系抗菌薬、抗MRSA薬の適正使用を求め、薬剤耐性菌を生み出さないよう努めています。また、院内での抗菌薬使用量の集計も薬剤師の仕事です。毎月の抗菌薬使用密度(AUD)を算出し抗菌薬使用量の適正化のチェックを行っています。

③ 認知症チーム(DST)

DSTの活動として、週1回カンファレンスとラウンドに参加しています。入院患者さんのせん妄・BPSDなどの治療やその評価などを医師・看護師・社会福祉士・作業療法士とともに多職種のチームで連携して行っています。薬剤師として使用薬剤の確認、中止・変更などの提案や調整などを通じて退院支援にも関わっています。

④ 糖尿病チーム

日本糖尿病療養指導士の資格を持つ薬剤師3名が、糖尿病センターの一員として糖尿病患者さんの療養指導に携わっています。主たる業務としては、糖尿病教室、カンパセーションマップを用いた勉強会でのファシリテーター、外来での自己注射指導です。カンパセーションマップを用いた勉強会は、少人数制で会話をしながら進めるため知識が身につくやすく、また同じ境遇の患者さんとの横のつながりが生まれることにより療養意欲の向上につながるなど、好評を頂いております。今後も日々勉強を続けながら、より良い療養指導を実践していきたいと考えています。



新任医師の

ご紹介



耳鼻咽喉科
医師
小川 高生



現愛知医大耳鼻咽喉科教授の植田広海先生とともに中耳サージセンターを開設することを目標に、10月より赴任致しました。10月末から手術を開始しており、令和2年4月からの本格的な始動へ向けて取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



健康によいレシピ

えのき入りふわふわ鶏だんごと野菜のスープ

すりおろした玉ねぎ、えのきだけを練りこむことで、ヘルシーにボリュームアップ。ふわふわやわらかで、食物繊維も摂れます。野菜とお肉がバランスよく食べられ、低カロリーながら満足感があるので、ダイエットに最適。しょうがが香る優しい味のスープです。季節の野菜を入れたり、鶏だんごだけ鍋に入れるなどアレンジも可能です。



【材料(2人分)】

- 鶏ひき肉 150g
- えのきだけ 1/2パック (50g)
- 玉ねぎ 1/4個 (50g)
- パン粉 1/3カップ
- 酒 大さじ2
- A ●醤油、砂糖、ごま油 各小さじ1/2
- 塩、こしょう 各少々
- しょうが(すりおろし) 小さじ1/2
- 大根 4cm (100g)
- にんじん 1/4本 (40g)
- チンゲン菜 1株
- 水 600ml
- B ●顆粒コンソメ 小さじ1
- しょうが(すりおろし) 小さじ1
- ごま油 小さじ1
- 塩、こしょう 各適宜

【作り方】

1. 大根、にんじんは薄いちょう切りにする。鍋にごま油少々(分量外)を熱し、大根とにんじんをさっと炒める。Bを加えて蓋をし、沸騰したら弱火にして煮る。
2. えのきだけは石づきを取ってみじん切りにし、玉ねぎはすりおろす。
3. ポウルに鶏ひき肉、えのきだけ、玉ねぎ、Aを入れ、ねばりが出るまでよく混ぜる。
4. ③を直径約3cmずつ丸め、①の鍋に入れる。すべて入れたらフタをして強火にし、沸騰したらすぐ弱火にして7分ほど煮る。
5. アクを取り除き、チンゲン菜をざく切りにして加え、さっと煮る。塩、こしょうで味を調え、ごま油を回し入れる。



名鉄病院

〒451-8511 名古屋市西区栄生 2-26-11
URL <http://www.meitetsu-hospital.jp/>
TEL052-551-6121 (代表)



経営主体

名古屋鉄道健康保険組合

病床数

HCU	12床
一般病床	321床(7:1看護)
地域包括ケア病床	40床
合計	373床

診療科目

- 内科
- 循環器内科
- 腎臓内科
- 消化器内科
- 呼吸器内科
- 脳神経内科
- 血液内科
- 内分泌・代謝内科
- 透析内科
- 小児科
- 外科
- 消化器外科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 脳神経外科
- 婦人科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 女性泌尿器科
- 耳鼻咽喉科
- 眼科
- 麻酔科
- 放射線科
- 病理診断科
- リウマチ科

診療センター

- 内視鏡センター
- 認知症疾患医療センター
- 糖尿病センター
- 肝臓疾患センター
- 関節鏡・スポーツ整形外科センター
- ウロギネセンター
- 予防接種センター
- 健診センター
- 透析センター

専門外来 ※予約制 (一部を除く)

- 禁煙外来
- リウマチ膠原病内科
- スポーツ内科(他院から紹介のみ)
- ASO外来
- ペースメーカー外来
- 肝臓外来
- シルバークリニック
- インスリン導入外来
- 糖尿病眼合併症外来
- 糖尿病透析予防外来
- フットケア外来
- 糖尿病眼合併症外来
- 小児慢性疾患外来
- 乳腺外来
- 乳児健診
- 関節鏡外来
- スポーツ外来
- ストーム外来
- 小児整形外来(月1回・不定期)
- 女性泌尿器科外来
- 脊椎外来
- 音声外来 ほか



1号館前の名鉄病院駐車場について
平日7時~17時の利用で、来院お見舞いの方は割引サービスが可能です。
1号館1階Aブロックか2階総合受付に、駐車券を事前に提示して割引
認証を受けてください。
また、病診連携専用の駐車場も用意しておりますので、詳しくは地域
医療連携室までお問合せください。

病診連携・紹介状に関するお問い合わせは

地域医療連携室 TEL. 052-586-5755 FAX. 052-586-5756

本紙内容に関するお問い合わせは

事務部事務1課 TEL. 052-551-6299 FAX. 052-551-6711